【射流分水工並びにチェックゲート設計作業項目内訳表】《基本設計》

作業項目	作業内容	作業実施欄	
		当初	変更
１現地調査	基本設計に必要な調査を行う。 （補足説明） 路線計画設計(基本設計)時に実施した現地調査結果の確認を行う。		
２資料の検討	基本設計のための資料収集及び貸与資料の内容を把握する。		
３設計計画 3-1 基本条件の検討	概略実測資料に基づく水理構造設計の基本条件を決定する。 （補足説明） 貸与資料、現地調査等から基本条件を 1/1,000 地形図で検討し、決定する。		
3-2 規模構造の検討	規模、構造を比較検討し、概略を決定する。 （補足説明） 水理縦断図に示す水頭配分に基づき型式、規模及び構造について２ケースを立案し、立地条件等から比較して決定する。		
４水理計算	規模検討のための水理計算を行う。 （補足説明） 上下流取付水路、整流部及び各水理断面における水理諸元の計算を行う。		
５構造検討 5-1 構造計算	標準断面についての構造計算を行う。 （補足説明） 標準断面を対象に構造計算を行う。		
5-2 構造図作成	構造一般図、構造図、配筋図を作成する。 （補足説明） 構造計算の対象である標準断面について構造一般図、構造図、配筋図を作成する。		
６土工図作成	切盛土量を表示した土工図を作成する。		
７数量計算	土工、コンクリート、鉄筋、型枠、附帯施設等の数量計算をする。 （補足説明） 標準断面における土工、コンクリート、鉄筋量、型枠量を算出し、箇所当たりの数量を求める。		
８施工計画	側水部、観測井戸など特に重要部分の施工法と工程計画の骨子について作成する。		
９特別仕様書作成	主要なものについて特別仕様書を作成する。		
10 概算工事費積算	主要単価を作成し、概算工事費を算定する。 （補足説明） 近傍実施単価を参考に主要単価を作成し、工事費を算定する。 仮設費は標準的な工事を想定して実績から算定する。		
11 総合検討	前項までの作業について総合的な検討を行い、今後の作業についてコメントを付記する。		
12 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。		
13 点検取りまとめ	成果資料の点検、取りまとめを行い、報告書を作成する。		

【射流分水工並びにチェックゲート設計作業項目内訳表】《実施設計》

作業項目	作業内容	作業実施欄	
		当初	変更
１現地調査	実施設計に必要な調査を行う。 （補足説明） 基本設計の成果を参考に路線計画設計(実施設計)時、基本設計時に実施した現地調査結果の確認を行う。		
２資料の検討	実施設計のための資料収集及び貸与資料の内容を把握する.		
３設計計画 3-1 基本条件の検討	詳細実測資料に基づく水理構造設計条件を決定する。 （補足説明） 貸与資料、現地調査等から指示する基本条件を 1/500 地形図で検討し、決定する。		
3-2 規模構造の検討	規模構造を決定する。 （補足説明） 水理縦断図に示す水頭配分に基づき型式、規模及び構造について立地条件等を十分考慮して決定する。		
４水理計算	実施断面の水理計算及び各種損失水頭の計算を行う。 （補足説明） 基本設計の水理計算をチェックし、水理諸現象の水理検討を行い、安全性の検証を行う。		
５構造検討 5-1 構造計算	各断面についての構造計算を行う。		
5-2 構造図作成	構造一般図、構造詳細図、配筋図、鉄筋加工図、側水井戸等の図面を作成する。 （補足説明） 構造図とは構造図の他に施工上必要な基礎工及び附帯施設、箱抜等を記入する図面を云う。		
６土工図作成	施工法区分（単価区分）毎の土工数量、法面保護工長等を記入した詳細図を作成する。 （補足説明） 流用土、搬出土(捨土)、搬入土(購入土)等が算定できる図面を作成する。		
７数量計算	土工、コンクリート、鉄筋、型枠、附帯施設等の詳細数量計算を行う。 （補足説明） 数量計算運用規定に基づいて数量計算を行う。		
８施工計画	側水部､観測井戸など特に重要部分の施工法と工程計画の詳細について作成する。		
９概算工事費積算	各工種の単価を作成し、概算工事費を算定する。 （補足説明） 仮設費は積み上げ又は適切な率計上により算定する。		
10 総合検討	前項までの作業について総合的に検討し、工事実施のための点検を行う。 （補足説明） 前項までの作業について総合的に検討し、工事実施に当たり必要なコメントを付記する。		
11 照査	照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。		
12 点検取りまとめ	成果資料の点検、取りまとめを行い、報告書を作成する。		